

Katoh
Kazutoyo

群像表現への招待

加藤 一豊



加藤 一豊
ラオワンと尼僧達 1977年

2014年
2月1日(土)~5月11日(日)

開館時間 9:30~17:00(最終入館16:30)

休館日 月曜日(2/10・5/5を除く)、2/12(水)・18(火)、3/25(火)、4/30、5/7(水)~9(金)

観覧料 一般 300(240)円、高校生・市内高齢者 150(120)円、中学生以下無料

* ()内は20名様以上の団体料金

同時
開催

新収蔵品展

上野山清貢
大月源二
桐谷逸夫
筆谷等親
輪島進一



市立小樽美術館
otaru city museum of art

〒047-0031 小樽市色内1-9-5
Tel:0134-34-0035 Fax:0134-32-2388

輪島進一 ノイズボーカリスト 1987

群像表現への招待 加藤一豊

1910(明治43)年小樽に生まれた加藤一豊は、幼少から絵を好み、庁立小樽中学(現小樽潮陵高校)入学の頃から独学で油絵を始めました。美術学校への進学を希望しましたが、両親の反対で明治大学法学部へ進学し、同大学に通学しながら岡田三郎助のアトリエに通います。画家への夢は捨てきれず、卒業後光風会に初入選を果たしたのを機に、いよいよ本格的に活動しようとした矢先、突然の召集令状で画業は中断されました。

戦地で病に倒れ帰還した加藤は、1940(昭和15)年「西門の警備」を日展に出品します。北海道出身の無所属から唯一入選を果たした喜びは大きく、続いて陸軍病院に取材した「実験室」で一水会展へも入選し、将来への自信に繋がりました。

加藤は1946(昭和21)年に一水会会員に推挙されましたが、まもなく肺を患い、再び画業中断という辛酸を嘗めることとなります。長い闘病生活を続け、ようやく画業に復帰したのは1970年代に入ってからでした。加藤のオリジナリティあふれる個性は、「群像表現」にあると見て良いでしょう。1972(昭和47)年にヨーロッパを訪れ、そこでルネサンス期に至るまでの様々な古典名画と接し感動したことが、群像を描きはじめるきっかけになりました。多くの人物画を手がけていた加藤でしたが、群像は肖像を描くのととは異なり、人と人、人物と背景の配列や関連を自然に見せ、しかも絵画的な構成をもっていなければならないと考えました。そして、大画面の空間構成、光の明暗、その配分などに強い関心を抱き生涯追究していきます。

本展は、生活のロマンを群像表現に求めて、誠実で気品ある作風を確立した洋画家、加藤一豊(1910-2000年)の画業を展覧するものです。



ナース達 1973年



Y氏の部屋 1983年



婦人像 1937年



意図の静物



音楽(リハーサル) 1976年



若木寿氏像 1984年

小樽 * 雪あかりの路 * 2014 ミュージアムコンサート

2月7日(金)、8日(土)、9日(日)、
10日(月)、11日(火)、13日(木)、
14日(金)、15日(土)、16日(日)の9日間

* 文学館「ピアノコンサート」*
13:30~14:30 2F:文学館展示室
一般 300円
高校生・市内高齢者 150円
中学生以下 無料

* 美術館「チェンバロコンサート」*
15:00~16:00 2F:美術館展示室
一般 300円
高校生・市内高齢者 150円
中学生以下 無料

ピアノ・チェンバロ演奏: 福田直樹

両方お聴きいただく場合は共通券がお得です。
一般 500円、高校生・市内高齢者 250円
中学生以下 無料

訪問先		小樽市	
●小樽観光センター	●NET	●観光局	●サンビルスクエア
●サンモール	●オーセントホテル小樽	●旧手宮邸	
●金融資料館(旧日本銀行)	●市立小樽美術館・文学館	●HOTEL VIBRANT OTARU	
小樽市役所			



市立小樽美術館
otaru city museum of art

〒047-0031 小樽市色内1-9-5
Tel:0134-34-0035 Fax:0134-32-2388